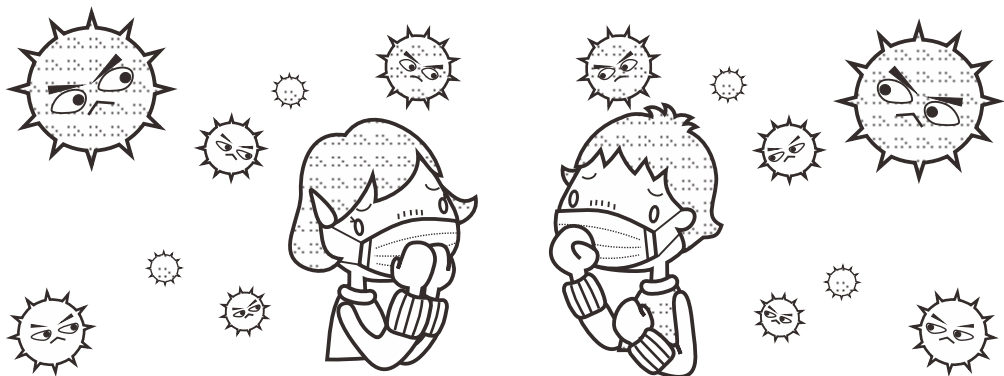


こどもの病気

秋・冬編①

…風邪とまちがえやすい感染症…



宣言

明るい
笑顔

すぐ
返事

伝える
元気

かちどき薬品 ホームページ
げんき君 健康に関する情報がいっぱい
<http://www.genki1616.co.jp>

かちどき薬品グループ 

かちどき薬局のブログ
ameblo.jp/kachidoki-blog



Seedling 2016 10月号

秋～冬に
かかりやすい

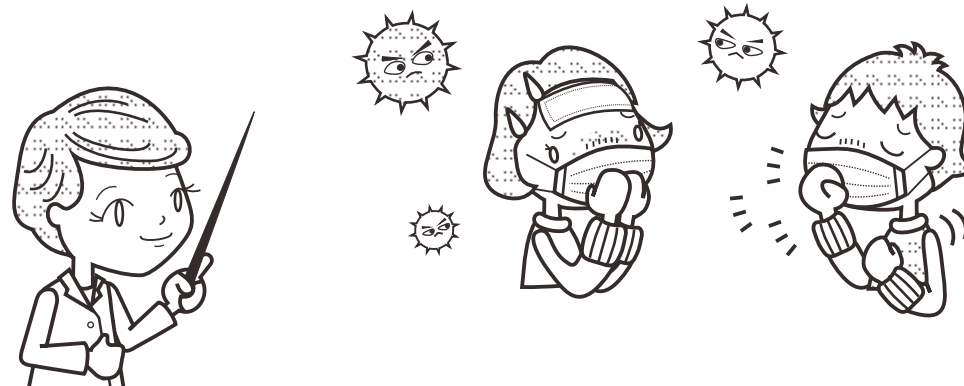
こどもの 病気

風邪とまちがえやすい感染症

季節の変わり目は様々な感染症が流行りだします。特に秋～冬は気温が下がることで免疫力も下がり、ウイルスに感染しやすい季節です。体力や免疫力の低いこどもは特に注意が必要です。

こどもの病気はわかりにくく、風邪の症状に似ているものが多いです。しかし、中には合併症などを引き起こし重症化する可能性のある病気もあります。

しっかりと予防し、もし発症してしまっても適切な対応をとれるようにしましょう。



溶連菌感染症

溶連菌という細菌がのどや皮膚に感染して起きます。一見するとのど風邪のようですが、風邪とは違い様々な合併症が存在します。

症状	発熱、咽頭痛、イチゴ舌(舌にブツブツができる)、全身に赤い発疹
かかりやすい年齢	全年齢にかかるが、6~12歳のこどもに多い
発症期間	2~3日で症状は和らぐが、10~14日間は治療が必要
ワクチン・特效薬	ワクチンはなし 合併症予防のため、抗生剤による治療を行う
知っておきたい ・合併症 ・重症化	<p>中耳炎、気管支炎、リンパ節炎、副鼻腔炎や、以下の合併症につながる危険性がある</p> <ul style="list-style-type: none"> ●急性糸球体腎炎 血尿、タンパク尿、むくみなどの症状があらわれ、入院が必要になることがある。溶連菌感染の10~14日後に発症することが多い。 ●リウマチ熱 発熱や関節炎、心炎など身体の各部に炎症があらわれる。 <p>※症状が改善しても、2週後と3~4週後に尿検査をして、異常がないことを確認しましょう。</p>

RSウイルス感染症

ウイルス性の風邪のひとつで高熱やひどい咳が続きます。2~3歳までにほぼ1回はかかり、免疫ができないため繰り返し発症することがあります。

症状	発熱、鼻水、咳など風邪に似た症状が出る、喘鳴というゼーゼーする呼吸が出る(細気管支炎)
かかりやすい年齢	1歳以下は症状が強く出やすい 5~6歳になると症状が軽い場合が多い
発症期間	軽い症状であれば1週間で和らぐが、長引くと20日ほどかかる場合もある
ワクチン・特效薬	なし 点滴での水分補給や気管支拡張薬などによる対症療法を行う
知っておきたい ・合併症 ・重症化	<p>重くなると細気管支炎や肺炎を引き起こし入院が必要になる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先天性の心臓病を持つこどもは、しばしば重症化することがある ・早産未熟児や生後1カ月未満のこどもが感染すると無呼吸発作が起きるリスクが高く、突然死の危険がある

マイコプラズマ感染症

マイコプラズマという病原体が肺や気管支に感染して起こります。家庭内や学校など集団生活している環境で感染が広がります。

大人のほうが重症になりやすいため、家族も注意が必要です。

症状	のどの痛み、咳、鼻水、鼻づまり 37℃程度の微熱から39℃以上の高熱 喘息の場合は悪化し喘鳴を伴う
かかりやすい年齢	14歳以下がかかりやすく、 8～9歳がピーク
発症期間	発熱は2、3日でおさまるが 咳は3～4週間続くこともある
ワクチン ・特效薬	ワクチンはなし 治療は抗生剤が有効で、発熱・咳への対症療法も行われる
知っておきたい ・合併症 ・重症化	喘息発作を引き起こしたり、 肺炎に進行する恐れがある ほかに発疹、中耳炎、副鼻腔炎などがみられる場合もある



基本の予防・対策

基本は風邪の予防と変わりませんが、感染症が流行している時などは特に徹底しましょう。

免疫力を高める

- ・規則正しい生活
- ・バランスのよい食事
- ・十分な睡眠

●手洗い

時間をかけて指と指の間もしっかりと石鹸で洗いましょう。



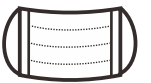
●うがい

粘膜にうるおいを与え、付着したウイルスを減らすことができます。



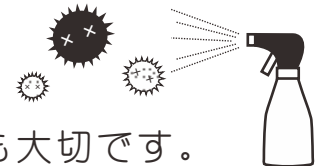
●マスクの着用

ウイルス用マスクは口や鼻からの侵入や、手で口や鼻を触るのも防ぎます。家族も予防のためにマスクを着用しましょう。



●身の回りのものをこまめに消毒

ウイルスは体外に出ても数時間は感染力が落ちないため、鼻をかんだ後の手で触れたテーブルなどを介して、感染してしまう恐れもあります。アルコールなどで消毒しましょう。



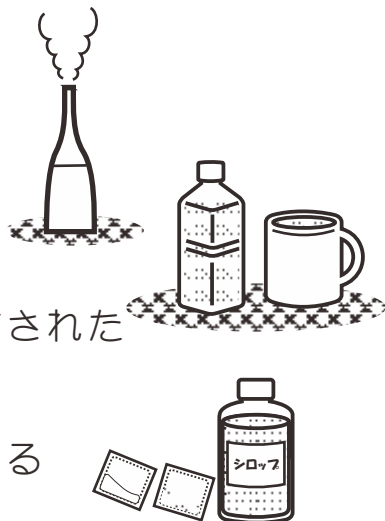
●人混みを避ける

感染症の流行状況によっては、外出の日程や内容を見直すことも大切です。

発症してしまったら

【家庭でできるケア】

- 部屋を加湿する
- こまめな水分補給
- 食事は消化のよいものを用意
- 必ず受診した際に医師から処方された薬を使用する
- 薬が飲めない時は医師に相談する
- 熱があり、手足が熱い時は薄着にさせる
 - ・ 布団を重ねたり厚着をさせるなどして、過剰に温めすぎない
 - ・ 手足が冷たく寒がる時は温める
- 37.5℃以上の熱がある場合、入浴は体力を消耗するので、体調が回復するまでは避ける



こどもが安心して心地よく
過ごせる環境をつくるのが
大切です。



受診のしかた

いざという時に慌てず対応できるよう
受診のしかたを確認しましょう。



かかりつけ医をもちましょう

診療時間内に受診しましょう

こどもの症状、様子がわかる人が付き添いましょう

持ち物を確認しましょう



持ち物リスト

■ 母子健康手帳、保険証、医療証、診察券、お薬手帳

受付で出しやすいように準備しておきましょう。

■ 症状・経過を書いたメモ

飲んでいる薬や名前がわかるもの



■ 着替え、おむつ、タオル、ティッシュペーパー、ビニール袋など

寒気を感じる時や、熱が下がらない時は
バスタオルを体にかけて待ちましょう。
汚れても洗えるものが便利です。

